



CONVERSATIONS VIRTUOSES

「フランスと日本文化の Conversation ショーメのサヴォワールフェールと日本の名匠 3 人との対話」

2021年11月23日(火)～11月28日(日)
横浜・三溪園にて特別一般公開

240年に亘り受け継がれてきたショーメの卓越したハイジュエリー60点超と、
世界に名高い日本のVIRTUOSES(練達の名匠たち)との対話



「ラ ナチュラル ドゥ ショーメ」コレクション
フィルママン アポロニアン ネックレス

フランスを代表するハイジュエリーメゾンのショーメは「フランスと日本文化のConversation—ショーメのサヴォワールフェールと日本の名匠3人の対話」と題して行うハイジュエリーイベントを特別一般公開いたします。本展は、フランス文化と日本文化の対話をコンセプトに、日本初お披露目を含むショーメのハイジュエリーと、日本の伝統芸術の職人たちが手掛ける作品をテーマごとにご紹介します。フランスのサヴォワールフェール(匠の技)と日本文化の匠による美と文化の競演をお楽しみください。

ショーメのジュエリーと対話をするのは、日本を代表する名匠3家。竹芸家・四代 田辺竹雲齋、盆栽作家・木村正彦、刀匠・月山貞利、月山貞伸。奥義に達した名匠たちの「人の手が成す仕事」、素材へのこだわり、優れた技能、高い精神性はいずれもフランスが誇りとするショーメの深い美と共通する部分です。会場には名匠達が生み出した作品の数々がショーメの芸術と呼ぶべきジュエリーとともに展示されます。人の手で美を希求するというショーメと日本の名匠たちの対話を作品を通してお楽しみください。

＜余白の美 VIDES ET PLEINS＞ CHAUMET x 四代 田辺竹雲



「ペルスペクティブ ドゥ ショーメ」コレクション
ラシネックレス



2020年12月：京都国立博物館にて開催されたアート京都での夢工房ブースの作品タイトル「Connection—無限—」
Photo Credit Tadayuki Minamoto

編む、組むというテクニックはショーメならではの優美さの源。メゾンの技である「フィル クトー」はナイフの刃（クトー）のように薄い線（フィル）でパーツを繋ぎあわせ、ジェムストーンが軽やかに宙に浮いているように見える極めて高度な技術。竹という素材のフレキシビリティを駆使し、古くから伝わる編み技を進化させ、これまで見たこともないようなかたちを空間に創造する四代 田辺竹雲齋。新しい表現を追い求める彼の精神は、荘重なクラシックを軽快なモダニティへと再解釈するショーメのエスプリに重なるのです。



四代 田辺竹雲齋

1973年、大阪府堺市に三代竹雲齋の次男として生まれる。幼少から竹に触れ、自然と竹を志すようになる。四代田辺竹雲齋を代表する2つの作品群は、代々の技術・精神を受け継ぐ伝統的な作品と、竹によるインスタレーションや現代性の強い竹の立体作品の制作。インスタレーションは「記憶に残すアート」をテーマとして毎回違う場所と形で発表している。形は無くなってしまいが、材料である竹は展覧会終了後に解き、再利用して次の作品に繋がります。

< 自然を彫る SCULPTER LA NATURE > CHAUMET x 木村正彦

「レシエル ドゥ ショーメ」コレクション
パサージュ ネックレス

色あせることなく輝くショーメのジュエリーに欠かせないものは、自然からの贈り物ともいえるジェムストーン。数十億年も大地の奥底で眠っていた石を選び抜き、カットし、ときにデザインに合わせてまたカットします。石に人の手を加えるラピダール(宝石細工)の技で、めくるめく輝きが引き出されるのです。100年、ときに1000年を超える樹齢の盆栽も、手入れを続けることで長い歳月を生き、その命脈を保ちます。移ろい、変わりゆく時代の流れのなかにあって「永遠」の意味を教えてくれるもの。しっかりと根を張り、揺るぎないもの。木村正彦の盆栽も、ショーメのハイジュエリーも、その在り方は同じなのです。

**木村 正彦**

1940年3月31日に埼玉県さいたま市大宮区に生まれる。数多くの作品が内閣総理大臣賞や国風賞を受賞。独創的なアイデアと卓越した技術から「盆栽界の魔術師/錬金術師」と呼ばれる。2006年黄綬褒章受章、2007年文化庁長官賞受賞第一回世界盆栽大会にもデモンストレーターとして参加。

< 金属の芸術 L'ART DU METAL > CHAUMET x 月山貞利、月山貞伸



「ベルスペクティブ ドゥ ショーメ」コレクション
スカイライン ネックレス



月山貞利 刀 相伝 剣摺龍彫(71.3x2.0)



月山貞伸 刀 皆焼2020日刀保(75.5x2.1)

18世紀に生まれたショーメの創業者マリ＝エティエンヌ・ニトは、金細工に秀でた人でした。極限まで薄く引き延ばしたゴールドで、フォルムを大胆にかたち作る技は、職人の至芸ともいえるもの。オルフェヴル（金細工）の伝統をショーメは今なお正しく守り伝えています。

およそ800年の長きにわたり、作刀の技を受け継いできた刀匠・月山貞利、月山貞伸。彼等の鍛えた刀身には、綾杉肌と呼ばれる独特の模様が浮かび上がります。刀身に彫物をするのも月山派の特徴。ショーメ、月山家ともに時代を越えて今もなお継承された昔ながらのやり方で、伝統そして技を継承しているのです。



月山貞利：昭和44年文化庁の作刀承認を受けた後は高松宮賞、文化庁長官賞、寒山賞など数々の賞を受賞し、36歳にて新作名刀展無鑑査に認定。大阪月山家の五代目として綾杉鍛えや月山彫を継承すると共に各伝に通ずる力作を多く残し、独創的な鍛刀や刀剣彫刻にも積極的に挑戦している。寺社の御神刀や横綱土俵入りの太刀、ボストン美術館やニューヨークメトロポリタン美術館からも刀剣が所望されるなど国内外で活動の幅を広げている。多くの弟子を輩出し、後継者の育成にも注力しています。現在、奈良県指定無形文化財保持者、全日本刀匠会顧問。



月山貞伸：1979年、月山貞利の長男として奈良に生まれる。幼少の頃より祖父貞一や父貞利の作刀風景を目にし、大学入学と同時に入門を決意。2006年に文化庁より作刀承認を受け、翌年には新作名刀展にて新人賞を受賞。先祖伝来の綾杉伝を受け継ぐと共に、各伝を習得する中で貞一や貞利も得意とする相州伝の技術を研鑽し、各種コンクールでも特賞や入賞を重ねている。最近ではアニメとのコラボ展や積極的に刀剣鑑賞会などを試みることで、これからの日本刀を考え啓蒙活動にも尽力。

CONVERSATIONS VIRTUOSES
「フランスと日本文化の Conversation
ショーメのサヴォワールフェールと日本の名匠 3 人との対話」



CONVERSATIONS
VIRTUOSES

【特別一般公開 概要】

日程: 2021年11月23日(火)～11月28日(日)

会場: 横浜・三溪園
〒231-0824 神奈川県横浜市中区本牧三之谷58-1

開館時間: 9時～17時

Supported by: 在日フランス大使館、公益財団法人 三溪園保勝会

取材に関するお問合せ先

CHAUMET PR事務局(共同PR内)

担当: 三井・佐々木・伊藤

TEL: 070-4303-7353(佐々木)・090-4627-6554(伊藤)

MAIL: chaumet-conversation-pr@kyodo-pr.co.jp

LVMH ウォッチ・ジュエリージャパン株式会社 ショーメ ディヴィジョン

PRマネージャー 久保田 知子(080-1022-3371)

E-mail: tomoko.kubota@chaumet.com

ご掲載時のお問合せ先表記

ショーメ TEL: 03-5635-7057

WEBサイト: <http://www.chaumet.com/jp> facebook: <http://www.facebook.com/chaumet.japan>

Instagram: <https://www.instagram.com/chaumetofficial> LINE: @chaumetofficial

#ショーメ #chaumet